

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			心理学	「こころ」の問題を考えるための基本的視座を学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○		
○			倫理学	道徳、倫理の本質、起源、発達などの基本を学ぶ(医療倫理を含む)。	1・前	15	1	○			○				○	
○			社会学	人間の社会的行為と関連づけながら社会生活、社会組織及び家族等の基本を学習する。	1・前	15	1	○			○				○	
○			教育学	教育の目的、本質、方法、及び制度、行政等の基礎を学ぶ。	1・前	15	1	○			○				○	
○			公衆衛生学	公衆衛生とは組織化した地域活動を通じて、疾病の予防、生命の延長及び肉体的精神的健康の確保と増進を図る科学・技術であり、その基礎を学習する。	1・前	15	1	○			○				○	
○			化学	自然科学の一分野として、物質の成分組織、構造、生成、分解などの基礎を学習する。	1・前	15	1	○			○				○	
○			物理学	運動学の基礎として力学に重点をおいて学習し、科学的思考を身につける。	1・前	15	1	○			○				○	
○			生物学	生物又は生命現象を対象にした学問の基礎を学ぶ。	1・前	30	2	○		△	○				○	
○			情報処理学	各種情報機器の原理を学習し、演習において基本的なソフトの実際的な操作方法を修得する。	1・前	15	1	○	△		○				○	
○			統計学	医科学領域において特に役立つ統計学の基本的な概念や考え方を理解した上で実際に各種の検定法を利用して演習を行う。	1・後	15	1	○	△		○				○	
○			保健体育	生涯スポーツを通して健康保持増進に役立てるための学習を行う。	1・前	30	1	△		○	○	△			○	
○			英語	国際社会に対応できる英語力を養う。	1・前	30	2	○			○				○	

○		作業療法概論 (1)	作業療法についてその全体像が把握できる よう総合的、体系的に学習する。	1・前	30	2	○			○		○					
○		作業療法概論 (2)		1・後	30	2	○			○		○					
○		基礎作業学	作業学成立の歴史的背景と作業学の構造及 び作業分析と指導法を学習する。	1・前	30	2	○			○							○
○		基礎作業療法 学実習Ⅰ	陶芸・木工の基礎技法を実習し、併せて作 業の分析や指導法を学習する。	1・後	30	1	△		○	○							○
○		基礎作業療法 学実習Ⅱ	絵画・織物の基礎技法を実習し、併せて作 業の分析や指導法を学習する。	1・後	30	1	△		○	○							○
○		基礎作業療法 学実習Ⅲ	手工芸の基礎技法を実習し、併せて作業の 分析や指導法を学習する。	1・前	30	1	△		○	○							○
○		レクリエー ション療法演 習	レクリエーションには遊び、各種のスポー ツ、芸能活動などがあり、室内で少人数で 行われるものから、戸外で多数が参加して 行われるものまである。これらの活動を通 じて発散、昇華、洞察などの精神的変化が 生じる。これについての実技を学ぶ。	2・前	30	1		○		○	△						○
○		作業療法評価 学(1)	適切な治療及び指導を行えるよう、評価法 の基本的事項について学習する。	1・後	30	2	○			○							○
○		作業療法評価 学(2)		2・前	30	2	○			○							○
○		作業療法評価 学(3)		2・後	30	2	○			○							○
○		作業療法評価 学実習(1)	作業療法評価学で学んだ内容を実習を通し て理解する。	2・前	30	1			○	○							○
○		作業療法評価 学実習(2)		2・後	30	1			○	○							○
○		作業治療学Ⅰ (身体障害) (1)	身体障害に関する作業治療学。基礎知識と 各論(脳血管障害、脊髄損傷、神経、筋疾 患、リウマチ疾患、失調症、頭部外傷、切 断、脱髄疾患、呼吸器疾患、熱傷、骨折、 他)。又、各疾患を実際に見ることと、併 せて筋、感覚、循環、呼吸などの機能を理 解する。	2・前	60	4	○	△		○							○
○		作業治療学Ⅰ (身体障害) (2)		2・後	60	4	○	△		○							
○		作業治療学Ⅱ (精神障害) (1)	精神障害に関する作業治療学を学ぶ。(各 論は、機能的な精神障害、器質性精神障害、 神経性精神障害、児童期・青年期の障害、	2・前	60	4	○			○							○

○		作業治療学Ⅱ (精神障害) (2)	老年期の障害)。又、病院やデイ・センターなどの関連施設の見学を通して障害の理解を深める。	2・後	60	4	○		○	○									
○		作業治療学Ⅲ (発達障害) (1)	発達障害に関する作業治療学を学ぶ。(各論は、脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎、その他)。又、正常児や障害児を実際に観察し、接することにより理解を深める。	2・前	60	4	○		△	○		○							
○		作業治療学Ⅲ (発達障害) (2)		2・後	60	4	○		△	○		○							
○		作業治療学Ⅳ (老年期) (1)	老年期障害、いわゆる老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題を考える。	2・前	30	2	○			○		○							
○		作業治療学Ⅳ (老年期) (2)		2・後	30	2	○			○		○							
○		作業治療学Ⅴ (日常生活活動) (1)	日常生活活動に関する技術論。基礎知識(定義、歴史、作業療法士の役割、生活様式とADL、指導理論)及び基礎技法(評価、指導計画、指導の実例)。さらに障害別の日常生活活動の評価や指導法を実習する(リハビリ関連機器を含む)。	2・前	30	2	○		△	○		○							
○		作業治療学Ⅴ (日常生活活動) (2)		2・後	30	2	○		△	○		○							
○		作業治療学Ⅵ (義肢装具学) (1)	義肢、装具、リハビリテーション関連機能(自助具を含む)について学ぶ。基礎知識(定義、歴史、種類、構造、機能、作業療法士の役割、対象疾患及び障害)と基礎技法(製作、適合判定、訓練、追跡調査)の実習。	2・前	30	2	○		△	○		○		△					
○		作業治療学Ⅵ (義肢装具学) (2)		2・後	30	2	○		△	○		○		△					
○		作業治療学Ⅶ (高次脳機能障害)	失語、失行、失認、遂行機能障害、注意障害、認知症などの高次脳機能障害を学ぶ。神経心理学や高次神経活動の基本を含む。	2・後	30	2	○		△	○		○							
○		作業治療学Ⅷ (職業前関連活動)	職業前関連活動について学ぶ。基礎知識(定礎、歴史、作業療法士の役割、職業リハビリテーションと作業療法)と基礎技法(評価、指導計画、指導の実例-職業前訓練を含む)。	2・後	30	2	○		△	○									
○		地域作業療法 学(1)	地域で必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。	2・前	30	2	○		△	○									○
○		地域作業療法 学(2)		2・後	45	3	○		△	○									○
○		地域作業療法 学実習	地域作業療法で学んだ知識を基に、実際の対象者に対して計画を立案し実施する。	3・後	60	2	△		○	○	△	○							
○		臨床実習Ⅰ		1・後	90	2		△	○	△	○	○							○

○		臨床実習Ⅱ	作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について身体的、心理的、社会的状況を把握し、作業療法を行う。施設は身体障害者（児）施設、老人施設、精神科病院等である。	2・後	180	4			○	○	○	○
○		臨床総合実習Ⅰ		3・前	360	8			○	○	○	○
○		臨床総合実習Ⅱ		3・後	360	8			○	○	○	○
	○	医療福祉学	作業療法士として必要な医療福祉分野の知識を学ぶ。	3・後	15	1	○	△	○	△	○	
	○	作業療法理論概論	作業療法理論の歴史的な流れと現在の代表的な作業療法モデルについて学ぶ。	3・後	15	1	○		○	○	△	
	○	グループダイナミクス論	小集団の法則性を追求し、集団過程の原因を究明し、その原理を実際に適用する技術を実習する。	3・後	15	1	○	△	○		○	
	○	芸術療法概論	絵画その他の造形活動を主として創作的・芸術的活動を媒介とする治療法の基礎を学ぶ。	3・後	15	1	○	△	○		○	
	○	作業療法治療概論	発達障害児や中枢神経障害者の治療法や理論を学ぶ。	3・前	30	2	○	△	○	△	○	
	○	作業療法総合演習	作業療法の基本的知識で確認修得する。	3・後	15	1	○		○	○		
	○	障害者スポーツ論	障害者スポーツの概要を実際について学び、実技としてはレクリエーションを重視してとり組む。	1・後	15	1	△	○	△	○	○	
	○	レクリエーション概論	レクリエーションの意義・役割を理解し、計画をたてられるようになる。	1・後	15	1	△	○	△	○	○	
合計			82科目	3330単位時間			(165単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。